

MACF 礼拝説教要旨

2025年3月23日

「キリストの十字架に敵対する？」

フィリピの信徒への手紙 3章 17節～21節

17 兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。

また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。

18 何度も言ってきたし、今また涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。

19 彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。

20 しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。21 キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

パウロは自分の生き方に倣うようにとフィリピの人たちに勧めています。

不完全な自分であることを認めながらも、前に向かってひたすらイエス様の心に近く生きようとしている自分の生き方を真似て欲しいと言っているのです。

私たちの人生に模範となる先輩や仲間たちがいることは嬉しいことです。

パウロはクリスチャンとしての生き方の「モデル」として自分を提示しているのです。

しかし、同時にパウロは深い悲しみを表明しています。

「十字架に敵対して歩んでいる人たち」たくさんいるという事実です。

十字架に敵対するというのはどういう意味なのでしょう。

クリスチャンという自己紹介をしているにもかかわらず、

1) 十字架によってもたらされた神の恵み、祝福を拒絶しながら生きる

イエス様の十字架の苦難と死を「無駄」にしてしまうことに痛みを感じない生き方と言えると思います。福音は必要、でも、十字架は不必要という発想で生きている状態。

別に十字架での死などなくても、自分は大丈夫、お金も家も健康もあるから、大丈夫 本当に困った時だけ頼りにしますから、と地上のことだけにこだわって生きている人たちでしょう。

2) 十字架での犠牲を無駄なことと考え、他者のための苦労や苦難、犠牲を避け、

自分のことだけ考えて生きているというあり方

イエス様の生き方をモデルにしたいと、背中を向けて歩いている状態。

私たちはイエス様を信じ、イエス様の心を自分と同期させながら歩むことを

求められています。わたしにとって、「生きることはキリスト」とパウロは

宣言していますが、そういうキリストに近く生きることです。それは当然

自己中心ではなく、他者の祝福を意識しながら、生きることに繋がります。

もちろん、自分が祝福を受けることを否定する必要はありません。

その祝福を分かち合う意識を大切に生きることが重要なのです。

「恵みの独り占め」は健全ではないのです。それは分かち合って「完全なもの」になります。

この姿は放蕩息子の兄の姿の中に象徴的に表現されています。

彼の父に対する言葉はこうです。一緒に生活していたにもかかわらずです。

ルカによる福音書 15 章

そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。

27 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、

お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』

28 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。

29 しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。

言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、

子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。

30 ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、

肥えた子牛を屠っておやりになる。』

この父に対する兄のコメントの中に間違いなく存在しているものは

「比較して自分には祝福が届いていないという不満」「自己憐憫」「弟への憤り」そして「自己義認」の心です。

彼はとても真面目な人だったと思いますが、弟への愛も父への感謝も持ち合わせていないの

です。というより、どこかで「比較、競争、自己憐憫が始まって、自分はずっと評価されて良い

はずなのに、父はキチンとわたしを評価してくれていない」と駄々をこねるのです。

これが治されないままですと、キリストの十字架に敵対する生き方につながっていくのだと思います

。「感謝、そして、赦す心、祝福するところ」は本当に自分の心から排除してはいけないものですね。

パウロはそういう、この兄のような生き方をしている人たちのために「涙」を流しなにかわかって欲しい、

立ち返ってほしいと願っています。

この世のことだけに目を向け、心を向けるのではなく、キリストの心を自分の心のなかにお迎えし、キリストの愛といのちで励まされつつ生きるように切望しています。

その根拠は、わたしたちは、本質的に変わりやすく有限でもある「この世」に所属しているのではなく、本国、本籍は天にあるからだと言います。この地上におけるいのちは「神様からの貸与」であり、その先にあるのは「神様からの贈与としての永遠のいのち」なのです。私たちの肉体の死は、神様からお借りし、託された肉体を神様にお返しする作業でもあるのです。

その先にあるのは永遠のいのちであり、キリストの持つておられる栄光のからだへの移行なのです。

そういう希望を私たちは、確認し、確信し、その祝福を味わいながら、自分のためにも他者のためにも祝福を願いつつ生きたいと思います。

キリストに愛されていることを喜び、礼拝者として心を整え、キリストを愛し、他者への愛を増していただくように祈りながら進みましょう。

* *

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/nK1LTejhtY4>

* *

OCC での MACF の礼拝は 4 月 6 日です。

お楽しみに！